芝樋ノ爪小だより

https://shibahinotsume.edumap.jp
川口市芝樋ノ爪 2-10-48　℡048-266-5265

学　校　だ　よ　り
令　和　６　年　６　月
川口市立芝樋ノ爪小学校
児 童 数 ： ２ ７ ４ 名

継承される「伝統」とその発展

校長　吉 田　栄

花の青やピンク、そして葉の緑が雨に濡れてより一層鮮やかな光をまとった紫陽花が、その美しさを競うように咲き誇り、初夏から盛夏へと移り変わりゆく街の風景にそっと彩りを添えています。６月「水無月」。学校では１学期の折り返し点を迎えました。

授業中、教室の前を通ると、どのクラスでも楽しそうに学んでいる児童の様子を見ることができます。新しい学年、新しい教室、新しい先生、そして新しい友達にももうすっかりと慣れたようで、そんな児童の姿にはたくましささえ感じます。この調子で存分に伸び続けてほしいと思います。

さて、本校は今年度、開校５６年目を迎えました。芝樋ノ爪小学校の歴史を紐解けば、今から５６年前の昭和４４年４月、隣にある芝西小学校から分離し、芝樋ノ爪小学校が誕生、開校しました。開校当時の芝樋ノ爪小学校に通う児童は全部で７１２人だったそうです。今の芝樋ノ爪小学校の約３倍の人数です。かつては千人近い児童がこの芝樋ノ爪小学校に通っていたこともあったことがわかりました。今で言う「大規模校」です。昭和４５年１月１日、今も歌い続けられている校歌と学校のシンボルとも言える校章が決定しました。松本　旭　氏 の作詞による本校の校歌にある「澄めよ瞳」「おどれ心」「のびよ希望」は、この芝樋ノ爪小学校が求める児童の姿、人としての在るべき姿に他なりません。また、校章には芝の葉や根で太陽がモチーフとされており、その中央には芝樋ノ爪小学校の「樋」の文字が刻まれています。校章に描かれた芝は強い精神力を、太陽は限りない希望を表現したものであり、芝樋ノ爪小学校に通う児童全員の健やかなる成長をその願いとしています。校訓「至誠」とも連動し、脈々と受け継がれる芝樋ノ爪小学校のよき伝統の数々です。

芝樋ノ爪小学校がこれまで４千人を超える大勢の卒業生に見守られながら、長き歴史の中でよき伝統を築いてきたことは言うまでもありません。「伝統とは形を継承することを言わず、その魂を、その精神を継承することを言う」…この言葉は、柔道の創始者と言われている　嘉納治五郎　師範の言葉です。また、「伝統とは火を守ることであり、灰を崇拝することではない」…という言葉を遺したのは、１９世紀から２０世紀初頭にかけウィーンで活躍した作曲家であり指揮者でもある　グスタフ・マーラー　です。この２人の言葉は、「伝統」にどのように向き合い、どのように受け継いでいくべきなのかという、継承すべき伝統の本質を問う言葉であると考えます。

「形だけの伝統を守る」ことに固執するあまり、時代の変化やその時々の社会情勢、見方や考え方の変化に対応することができないようでは、本当の意味で伝統は「よき伝統」にはならず、この先継承し続けることさえ困難になると考えます。頑迷固陋と不易流行とは概念としては異なります。

先人たちの築いた教育の礎は偉大であり、今を生きる者がこの芝樋ノ爪の地に張る頑丈な根となるその高き志をしっかりと受け継ぐとともに、その「高き志」こそが揺るぎない伝統となって次代へ継承されるべきであると考えます。そうしてはじめて、「よき伝統」と言うことができるのではないかと思うのです。

これからの芝樋ノ爪小学校を創っていくのは、他でもない、今、芝樋ノ爪小学校に通っている２７４人の児童です。今の児童こそが、よき伝統を継承しつつ、さらに充実・発展させながら、この芝樋ノ爪小学校に新たな歴史を刻む「時代の先駆者」となるのです。芝樋ノ爪小学校で自分と異なる他者を相互に認め合い、ともに学び合う中で高め合い、自分と異なる他者を尊重する大切さを学び、近い未来に必ず訪れる真の共生社会を築く一員として、この芝樋ノ爪小学校とともに輝かしい未来に向かってさらに大きく飛躍してほしいと願ってやみません。